

大阪大学大学院

人文学研究科

Graduate School of Humanities

Osaka University

人文学専攻 / 言語文化学専攻 / 外国学専攻 / 日本学専攻 / 芸術学専攻

研究科案内

2022年度設置

グローバル社会を支える「新しい人文学」を
構築する人文学研究科

時代のニーズに合わせた
新しい超領域的学びの場





新しい人文学を構築する人文学研究科

MISSION

人文学研究科のミッション

今日、高度なIT基盤社会の到来、環境の危機的状況、少子化・高齢化、世界で進む分断と閉塞など社会や国際情勢が激変する中、人文学の役割も変化の時を迎えつつあります。人文学研究科では、教育体制を

時代に即してバージョンアップし、文系・理系の分断を超えて大阪大学の諸学の基礎となり、今日のグローバル社会を支えていく「新しい人文学」を構築します。具体的には、下記のようなミッションに取り組んでいます。

01

- Mission

文学、言語、歴史、芸術、地域研究等に関わる深い人文知を継承しながら、今日の課題に果敢に挑戦し、グローバル社会で活躍できる人材を育成します。

02

- Mission

人文学を最先端の科学技術と合体させたデジタルヒューマニティーズなど、新人文学分野を開拓します。

03

- Mission

全学教育推進機構等の学内組織と連携し、大阪大学のすべての学生に、文理の別にかかわらず社会人として必須のリベラル・アーツとしての人文学教育を開いていきます。

04

- Mission

多様なリカレント教育プログラムを導入し、高度な人文知を社会全体へと開いていきます。

育成する人材像

多彩な5つの専攻と人文学林によるシナジー効果によって、国内外の大学・研究機関や各種民間企業所属の研究者・社員などに加え、情報観、価値観、職業観、生命観、ジェンダー観などの変化や揺らぎといった、現在の社会や国際情勢の変化に対応する多様な人材を育成します。

■ 全専攻×デジタルヒューマニティーズ (DH)

DHの講義を全専攻から自由に履修できるようにし、最先端のDHの手法を身につけた修士・博士人材を創出します。

■ 日本学を支点として教育・研究を学際的・国際的・社会学連動的に展開

全学組織の「グローバル日本学教育研究拠点」と連携して、学際的・国際的・社会学連動的な教育プログラム・研究プロジェクトを多彩に展開し、高度な発信力・実践力を備えたグローバル人材を育成します。

■ インターンシップ導入による企業との交流と新しい人文学の人材創出

「人文学実務研究」と「人文学インターンシップ」の2種の研究科共通科目を設置し、さまざまな業種の企業との交流を活性化していきます。

本研究科の特色

「人文学林」の設置

安定した教育プログラムを提供する5専攻群(人文学／言語文化学／外国学／日本学／芸術学)に対して、社会のニーズにすばやく対応し、社会学連動活動を実施したり研究グループを立ち上げるなど、研究科全体の教育体制を俯瞰して共通科目を統括する機能を持つ組織である「人文学林」が設置されています。「人文学林」では、4つの学問分野と4つの地理的エリアを組み合わせ、16に区分された「学術マトリックス」を設けており、教員はその16の区分に配置されています。学生はそれぞれの興味関心に従ってその区分を選択することで、専攻を超えた交流や研究が可能となります。

人文学林

- ▶ 学術マトリックスに教員・学生を配置し、専攻横断的な人材育成と研究を推進
- ▶ 従来の組織の壁を超えたシナジー効果

4つの専門領域

- ① 言語科学・コミュニケーション系
- ② 思想・時空環境系(歴史・地理分野)
- ③ 思想・時空環境系(哲学・思想分野)
- ④ 文化表象系

4つの地理的エリア

- ① 日本 ② アジア・アフリカ
- ③ アメリカ・ヨーロッパ ④ エリア横断



専攻・コースと入学定員

専攻・コース	入学定員	
	博士前期課程 (161名)	博士後期課程 (65名)
人文学専攻	47名	14名
言語文化学専攻	32名	15名
外国学専攻	25名	11名
日本学専攻	40名	18名
基盤日本学コース		
応用日本学コース		
芸術学専攻	17名	7名





専攻紹介

COURSE

人文学専攻

博士前期課程、博士後期課程

人間性の「知」に関わる総合的な研究・教育

下記4コースからなる人文学専攻は、「人文(humanities＝人間性)の知」に関する総合的な研究・教育を展開します。それぞれの学術的文脈に即した先端的かつ独自の研究・教育を継続するとともに、現代社会の諸課題に応えるための研究アプローチを積極的に取り込み、伝統的な人文知の更新を目指します。

Ⅰ 哲学コース

哲学・思想・文化に関わる研究・教育を基礎／応用の両面から展開します。基礎に関係する専門分野には「哲学哲学史」(近現代西洋哲学を中心とした研究)「中国哲学」「インド学・仏教学」があり、厳密な文献読解に基づく古典研究を柱としています。応用に関係する専門分野には「科学技術社会論」(科学技術が社会に提起する諸問題について研究する学際的分野)「臨床哲学」(社会現場との関わりを重視する哲学)があり、哲学的な視点から現代社会の諸問題に取り組む試みです。

Ⅱ 文学コース

「英米文学」「ドイツ文学」「フランス文学」「中国文学」(「テキスト表現論」グループ)と、世界と日本の文学を総合的・横断的に研究する「テキスト環境論」の5つの専門分野からなります。どの専門分野においても、従来の文学研究の手法を継承するとともに、民族、地域、言語、階級、ジェンダーの境界を超えた「越境の文学」の研究を目指します。また、文学作品のみならず、音楽、演劇、絵画、建築、漫画、映画など広い意味での「テキスト」を研究対象とします。

Ⅲ グローバルヒストリー・地理学コース

東洋史学・西洋史学・人文地理学の3専門分野では、古代から現代まで、またミクロな地域社会からグローバルな構造的連鎖まで、学際的で先端的な研究方法を学びます。大学全体に開かれたグローバルヒストリー副プログラムに加えて、地域密着型のフィールドワークや、情報化時代の素養を身につけた人材を養成します。また、「歴史・地理教育プログラム」を設け、中高教員と連携して、市民に開かれた歴史・地理研究を目指します。

Ⅳ 比較・対照言語学コース

言語の共時的・通時的分析の方法を学びます。共時的研究では、現在の英語、日本語などのいくつかの言語を対照させることによって、言語に関する規則性・法則性を発見することを目指します。通時的研究では、英語をはじめとする印欧諸語等の歴史的発達に関する知見を得ることを目標とします。いずれのアプローチにおいても、十分な言語データ・資料に基づいた理論構築を行うことを重要視しています。

言語文化学専攻

博士前期課程、博士後期課程

今日的な課題に幅広い観点から取り組むカリキュラム

伝統的なディシプリンにとらわれない「言語文化学専攻」は、3分野にわたる6講座を有し、全講座が連携しながら、新たな研究領域や研究方法論を探究し、言語と文化に関する高度な教養や情報活用能力を修得することで、今日の多文化・多言語社会における国家・民族・文化間の諸問題等に取り組めます。

分野Ⅰ 超領域文化論講座

古代から現代にいたる文化・社会・思想・歴史に関する様々な事象や概念を、学問領域の枠にとらわれない広い視点で探究し、文化の形成と変容の諸相を多角的に究明するための総合的な知の体系の構築を目指します。具体的には、ジェンダー、人種、エスニシティ、ネーション、エコロジー、多文化共生、歴史と記憶、植民地主義とグローバリゼーション、その他のテーマをめぐる言語文化実践を考察の対象とし、文学・文化理論とフィールドワーク、思想史・社会史、精神分析学、人類学、環境人文学など様々な学術分野との関連において、超領域的な視座から考究する力と感性を養成します。

分野Ⅱ コミュニケーション論講座

現実の社会において発生する様々な問題を「コミュニケーション」の観点から調査するとともに、その問題を克服してより公正な社会を目指すための実践的技能と、言語に関連する諸科学の立場から導かれる理論との融合を試みます。多言語・多文化がひしめき合う現代社会において共生を可能にする言語文化リテラシー、およびコミュニケーションのデザイン力を追求します。

分野Ⅲ 理論言語学・デジタルヒューマニティーズ講座

自然言語の仕組みや構造を解明するとともに、人間の言語能力の真相に迫るための普遍的規則や原理を科学的に分析記述し、共時的ならびに通時的な視点から言語体系を明らかにするための研究を行います。また、言語データや文化資(史)料をデジタル処理・解析するための理論的枠組みや方法論の精緻化を進めます。数理的モデリングや機械学習を高度に応用して大規模テキストコーパスやデジタルアーカイブの潜在的特徴を発掘する分野横断的、巨視的分析と、理論言語学、文化学的知の蓄積に基づく洞察、微視的分析を相補的に組み合わせることにより、知見の科学的 reproducibility/replicabilityを担保する客観的事実、証拠に立脚した言語文化学の研究を行います。

分野Ⅰ 表象文化論講座

活字や映像をはじめとする各種のテキストや表象について、その多元的な生成・受容・伝達の仕組みを分析し、多種多様な文化現象の解明を目指します。具体的には、異言語・異文化接触において生じる文化変容や翻訳・翻案の研究、異なる地域や民族が有する言語文化の通時的・共時的諸相の比較、文化産業・大衆文化・メディア文化の動態の体系的考察を行います。

分野Ⅱ 第二言語教育学講座

第二言語教育学講座は、人がどのように母語以外の言語を使い、学び、そして教えるのかを研究する講座です。実際に使用するための第二言語教育に重点を置きながら、社会的・心理的・文化的な側面も研究領域に含めます。1つ以上の言語を用いる機会が増加している現代において、第二言語の実践または理論に関する問題を読み解き、専門家として対処できる能力を涵養します。

分野Ⅲ 言語認知科学講座

人間がどのように外界を認知し、知識を獲得しているのか、またさまざまな情報を処理しているのか、言語の情報処理の観点から人間の認知的システムを科学的に捉えることにより、人間の認知メカニズムのひとつとしての言語能力の仕組みと働きについて研究します。また、言語学においてこうした観点に立つ認知言語学について、理論的枠組みと具体的な言語研究への適用との両面にわたって研究します。

外国学専攻

博士前期課程、博士後期課程

24の言語とその地域について多角的・徹底的に学べるカリキュラム

2コースから成る外国学専攻は、さまざまなディシプリンと実践にわたって、世界の諸地域の言語と文化を総合的に教授・研究する「外国学研究」を主眼としています。24の言語とそれを基底とする文化一般について、人文社会科学諸分野のディシプリンの成果を応用しつつ考察することによって、専攻地域の言語と文化への深い理解を基に世界で活躍する人材を育成します。[ただし、博士後期課程はコース区分なし]

Ⅰ 地域文化研究コース

本コースは、研究対象とする言語・地域によって「アジア・アフリカ言語文化コース」と「ヨーロッパ・アメリカ言語文化コース」に分かれています。多様な言語、文化、社会を対象とした科目とともに、特定地域の言語社会について知見を広め、実践力の強化と研究の高度化を図る科目、さらに、多角的な研究視座を養うため、個別の言語文化圏を超えて社会の関心と時代の要請に応える科目を開講しています。高度な言語運用能力を身につけるとともに、研究対象とする言語圏についての広く深い知識を土台に、物事を多角的に見る目を養いながら、言語学、文学、歴史学、社会学などの諸分野、またそれらの学際的なアプローチに焦点を当てた教育を実践します。それぞれのコースで対象とする言語は右枠の通りです。

● アジア・アフリカ言語文化コース

中国語、朝鮮語、モンゴル語、インドネシア語、フィリピン語、タイ語、ベトナム語、ビルマ語、ヒンディー語、ウルドゥー語、アラビア語、ペルシア語、トルコ語、スワヒリ語

● ヨーロッパ・アメリカ言語文化コース

ロシア語、ハンガリー語、ドイツ語、デンマーク語、スウェーデン語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語

Ⅱ 高度専門職業人コース

本コースは、博士前期課程のみのコースであり、「英語教員リカレント・コース」と「中国語教員リカレント・コース」に分かれています。中学校または高等学校の現職の英語・中国語の教員もしくは教員免許取得者を対象とし、高度な専門的知識を持つ職業人を育成することを目指しています。

● 英語教員リカレント・コース

最先端の学識と英語運用能力を持つ、中学校・高等学校における英語教育の質の向上に貢献する人材を育成します。

● 中国語教員リカレント・コース

最先端の学識と中国語運用能力を持つ、中学校・高等学校における中国語教育の質の向上に貢献する人材を育成します。

日本学専攻

博士前期課程、博士後期課程

基盤的研究と応用的展開の双方をカバーする日本最大規模の日本学専攻

5分野から成る「基盤日本学コース」と、3分野から成る「応用日本学コース」の2コースを擁する日本学専攻は、日本の言語・文化・社会・歴史・文学などを厳密に学問的な方法に基づいて深く探究するとともに、その専門的知見に基づいて日本の抱える今日の課題に果敢に取り組むことのできる人材を育成します。さらに、比較や交流の観点から日本を世界的視野のうちに捉え、日本語・日本文化についての幅広い知見を基礎としてグローバルに活躍できる実践力・応用力を養います。

Ⅰ 基盤日本学コース

本コースは、現代日本学、日本史学、考古学、日本文学・日本語史学、基盤日本語学の5分野から成ります。ディシプリン・ベースの厳密で学問的な研究方法をしっかりと身につけながら、日本の言語・文学・歴史等について深く学ぶことができます。また、日本の文化や社会への現代的・学際的関心を幅広くカバーする多彩な授業も用意されています。基盤的研究能力を養いながら日本について深く広く学びたい方の期待に応えるコースです。なお、本コースの授業は豊中キャンパスで開講されます。

Ⅱ 応用日本学コース

本コースは、比較日本学、応用日本語学、日本語教育学の3分野から成ります。視野を世界に広げながら日本について深く学び、日本語・日本文化についての幅広い知見を基礎として日本と世界を結ぶ力を養います。日本の言語や文化や社会について深く学びつつ、グローバルに活躍できる実践力・応用力を身につけたい方の期待に応えるコースです。このコースには、4月入学の実践トラックと10月入学の専修トラック（留学生のみ）を設けていますが、どちらのトラックでも上記の内容を同じように学ぶことができます。なお、本コースの授業は箕面キャンパスで開講されます。多くの留学生とともに学ぶことができる点も、本コースの特長の1つです。

芸術学専攻

博士前期課程、博士後期課程

基礎と社会的実践の両方に立脚、国立総合大学最大の芸術学の専攻

4コースから成る芸術学専攻では、他の何ものによっても代替不可能な営みである芸術を、全国的にも類を見ない規模で捉え、専門的・先端的且つ学際的な厚みと多様性を備えた研究・教育活動を行います。これにより、現代社会の諸システムの制約や限界を超え出る可能性・構想力を持った人材を育成します。

Ⅰ アート・メディア論コース

作品を広範な社会環境のもとに連れ戻し文化政策・芸術計画の視点から考察すること、あるいは日々変貌するコミュニケーション技術のなかから新しい芸術理念やジャンルが立ち上がってくるさまをつぶさに目撃すること。本コースは文字通りアートとメディアの交差点に身を置きます。

Ⅱ 音楽学・演劇学コース

音楽学も演劇学もともに我が国の総合大学において稀有な存在です。音楽文化、演劇文化全般をジャンルの隔てなく扱い、それらを広く表演芸術（パフォーミング・アーツ）としてとらえて、歴史学、人類学、社会学、美学、文学などの隣接諸科学との関係の中で研究を進めています。

Ⅲ 美学・文芸学コース

美学分野では、感性・美・芸術にまつわる問題について哲学的に考察したり、現代アートについて議論したり、工芸やデザインに関係する事柄について研究したりできます。文芸学分野では、幅広く古今東西の文学や思想・文学論を対象とした研究ができ、また西洋古典学にも専門的に取り組むことができます。

Ⅳ 日本東洋美術史・西洋美術史コース

絵画、彫刻、工芸はもとより、写真や映像、建築、庭園など、あらゆる「イメージ」を研究対象としています。作品の様式や意味についての研究、制作の背景や受容の歴史など、さまざまな観点から、作品の的確な観察に基づいた実証的研究を行っています。



入試関連情報

ENTRANCE EXAM

入学試験

人文学研究科では、各専攻（日本学専攻は各コース）で入学試験を行います。入試の願書受付期間、試験期日、合格発表期日、また出願資格や選抜方法等の詳細については募集要項でご確認ください。特に、日本学専攻は、基盤日本学コースと応用日本学コースとでは出願期間も試験期日も異なりますので、注意してください。募集要項および最新情報は、各専攻のウェブサイトでご確認ください。

	専攻・コース	時期	試験区分	
			博士前期課程	博士後期課程
4月入学	人文学専攻 日本学専攻基盤日本学コース 芸術学専攻	秋期	一般 社会人	社会人
		冬期	一般 外国人留学生	一般 外国人留学生
	言語文化学専攻	夏期	選抜区分なし	—
		秋期	—	特別
		冬期	選抜区分なし	一般
	外国学専攻	夏期	一般 外国人留学生 社会人	—
		冬期	一般 外国人留学生 社会人	選抜区分なし
	日本学専攻応用日本学コース	夏期	実践トラック 一般 外国人留学生 社会人	—
		冬期	実践トラック 一般 外国人留学生 社会人	選抜区分なし
10月入学	日本学専攻応用日本学コース	—	専修トラック 外国人留学生	外国人留学生

2024年5月現在の情報です。

入試説明会

入試説明会

各専攻・コースで入試説明会を行います。詳細は研究科ウェブサイトをご覧ください。

大阪大学大学院
人文学研究科ウェブサイト

<https://www.hmt.osaka-u.ac.jp/>



人文学研究科紹介動画

人文学研究科および5専攻を紹介する公式YouTubeチャンネルがあります。

人文学研究科紹介動画

大阪大学大学院人文学研究科公式YouTubeチャンネル

<https://youtu.be/LuxFZ6xRnrc>



募集要項及び問い合わせ先

募集要項等は人文学研究科各専攻のウェブサイトに掲載しますので、ダウンロードのうえご利用ください。なお、ウェブサイトを利用できない場合は下記連絡先にお問い合わせください。

■ 人文学専攻・日本学専攻基盤日本学コース・芸術学専攻

〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町1-5

大阪大学大学院人文学研究科豊中事務部教務係

【TEL】 06-6850-5085 【FAX】 06-6850-5087

【E-mail】 jinbun-kyoumu@office.osaka-u.ac.jp

■ 言語文化学専攻

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-8

大阪大学大学院人文学研究科豊中事務部学務係

【TEL】 06-6850-5856 【FAX】 06-6850-5865

【E-mail】 jinbun-gakumu@office.osaka-u.ac.jp

■ 外国学専攻・日本学専攻応用日本学コース

〒562-8678 大阪府箕面市船場東3-5-10

大阪大学大学院人文学研究科箕面事務部学生支援係

【TEL】 072-730-5069 【FAX】 072-730-5057

【E-mail】 jinbun-minoh-shien@office.osaka-u.ac.jp

人文学林 人文学研究科の研究・学修支援エコシステム

Disciplinary Network in the Humanities

人文学基礎
人文学インターンシップ
デジタルヒューマニティーズ
学術マトリックス
学術推進部門

研究の深化
論文の作成

専攻横断的
教育・研究

研究課題の
明確化

専攻の枠を超えた
学位論文審査
システム

人文学林
超領域的な学術交流と
教育支援
デジタルアカデミア

研究課題の発見

修士・博士
学位授与

学外共創

共通教育科目による
基礎研究力の向上

キャリア形成支援

国際連携強化

学外ステークホルダーとの連携

人文学 × Society5.0

人文学 × SDGs

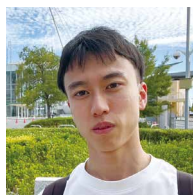


学生の声

VOICE

人文学研究科に在籍中の学生から受験生へメッセージを送ります。

※所属先と学年は、2024年4月時点のもの



滝川 陽稀
人文学専攻
博士前期課程2年

学部生の頃から中高教員志望で、それは現在も変わっていません。自らの研究経験の浅さに引け目を感じていた折、「歴史・地理教育プログラム」の存在を知り、本研究科への進学を決意しました。専攻する人文地理学については、足を使った情報収集が求められるという点に面白さと学びがいを感じています。現在は、人間と場所との間の心理的な結びつきに関心を持ち、特に農村への移住者に関する研究を行っているところです。2年間の課程の中で論文執筆の経験を積むと共に、地理の教え手としての専門性を高めていきたいと考えています。



飯田実花
日本学専攻 基盤日本学コース
博士後期課程3年

『源氏物語』（11世紀頃成立）に登場する「呼称」に着目し、物語と当時の社会との関わりについて研究しています。同じ「日本」でも、社会や価値観、ことばは、時代や場所によってさまざまです。所属する日本文学・日本語史学研究室には、古代から現代まで幅広い時代・地域の作品や言語現象を研究対象とする教員・院生が在籍しており、研究室内で日常的な会話や、院生発表会での議論のなかで、各々の研究対象の時代性や価値観の違いが共有され、自身の研究対象や思考を相対化することができます。他分野との交流とおして、自分のなかで点在していた知識が結びつく喜びを感じることができます。



ブヤチコバー・アリス
芸術学専攻
博士前期課程2年

東西の文化的交流に関心を持ち、古代シルクロードの染織品について研究しています。大阪大学の日本・東洋美術史研究室の大きな特徴は、美術品について実践的に勉強する機会が多いということです。毎週金曜日に研究室のメンバーと共に博物館や寺社を見学し実物から学ぶことができます。更に、研究室の先生方は人工知能など最新の技術を用いて研究を進めており、先生方の文化財調査には学生たちも参加できる機会が多いので、将来のキャリアのために貴重な経験が豊富に得られます。でも何より嬉しく感じているのは、心の健康も大事にする研究室の前向きな環境です。



ゲエン・タン・バン
外国学専攻
博士前期課程2年

日本語のオノマトペとそのベトナム語訳について研究しています。日本語におけるオノマトペの世界は本当に豊富で、日常会話はもちろん、広告や文学、アニメなどでも広く使われています。そのため、日本語学習者がオノマトペを適切に習得することで、日本人とより自然に会話できるだけでなく、言語認識能力や想像力の向上にもつながります。この研究を通して、日本語教育と翻訳に貢献したいと思います。外国語学専攻に所属しているため、日越の両言語を深く研究できることは本当にありがたいです。



藤井 朱実
外国学専攻
博士後期課程2年

大阪外国語大学でフィリピン語を専攻して以来、これまで外国人児童生徒への教育に携わってきました。近年では更なる在留外国人の増加に伴い、異文化の間で困難を抱えながら生活している親子は私達の身近にも少なくありません。そこで私は、子育てに必要な支援を確実に当事者へ届けるため、主に母親の社会的「居場所」に目を向け、仕組みの構築について研究しています。十数年ぶりに学びの庭へ戻り、家庭とも職場とも違う学問の空間を得られたことは、人生において新たな視座を養うことに繋がっています。



胡 響楽
言語文化学専攻
博士後期課程3年

映画史という蒼海の中で、時々観客に忘れ去られた遺珠のような作品があります。映画監督の勅使河原宏が六十年代に製作した前衛的な作品はそのような存在ではないかという思いから、今は勅使河原宏作家論を研究しています。普段は常に授業や研究発表会など、様々な場で、研究対象の異なる先生や学生の方々と交流する機会を恵まれています。それは自分の研究にとって、よい刺激になりながら、関連する研究分野への理解の深まりにも繋がっています。研究室の仲間たちと一緒に、研究を日々積み重ねて、着実に推し進めている環境が整っていると感じています。



成田 玲央奈
人文学専攻
博士後期課程2年

私は哲学を専攻しており、ジュディス・バトラーによる社会運動および連帯についての理論を研究しています。哲学哲学史分野研究室では、毎週金曜日にあるゼミや学内研究会など、研究発表をおこなう機会が多くあります。また院生を中心とした読書会が複数開催されており、関心のある文献を持ち寄り、テキスト解釈をおこなっています。こうした機会によって、自分とは異なる専門の院生や研究者との意見交換や議論が日常的に可能となっています。そのため、自身の研究を見直し、精緻化するためには良い環境だと考えています。



アフジュシェンコワ・イリーナ
日本学専攻 応用日本学コース
博士後期課程1年

私は、現代日本人の死生観を研究しています。母国の大学で日本の葬送儀礼の研究をしていたとき、このテーマは少し奇妙で風変わりだと言われましたが、阪大の大学院に入学してからは、逆に興味深く、有益なテーマだというコメントを受けるようになりました。大学院では、指導教員による研究指導や院生たちとの交流が、研究に取り組むための良い動機付けになります。また、発表会などで研究テーマに関する発表を行い、先生方や先輩から貴重なアドバイスを頂く機会もあります。研究を行うことは確かに容易ではありませんが、先生方や仲間からのサポートがあれば、研究活動が非常に魅力的なものになると思います。



菅本 歩
芸術学専攻
博士前期課程2年

明治期日本における西洋戯曲の受容について関心を持ち、坪内逍遙によるシェイクスピア悲劇『ジュリアス・シーザー』の翻案作品である『談散奇談』を研究しています。演劇学研究室の特徴として研究室に集まって話すことが多いことが挙げられると思います。特に演劇学の授業の後には研究室に入りきらないほどに人が集まり、最近の舞台や誰かの持ち込んだ疑問点についてとりとめない会話があります。私は他大学から進学しましたが、研究室内でのつながりの強さに驚かされました。研究そのものは一人で行うものかもしれませんが、学ぶことの「楽しさ」を知って知見を深めることの出来る場だと考えています。



蔵満 啓太
外国学専攻
博士後期課程1年

スペイン語の魅力にふれてから約10年。さまざまな外国語にも目をむけるようになり、常に発音の特徴を意識しながら言語学習を進めています。いまはカタルーニャ語における母音弱化現象という一音声現象について研究しています。研究者として意識すべきことは、決して「たこつぼ化」してはいけないということ。研究対象としている現象について他言語と比較したり、専門言語が話されている他地域を概観したり、自分の専門分野に隣接する人文科学さらには自然科学へと分野を越えたりすることもときには必要です。そのような学際的な研究が求められているなかで、多種多様な授業に参加し、異なる専門の学友たちと議論を重ねることで自分の研究がより立体的になることは間違いありません。



岸田 月穂
言語文化学専攻
博士後期課程1年
超域イノベーション博士課程
リーディングプログラム11期生 履修生

私の専門は社会言語学で、インターネットが発達した現代において深刻なコミュニケーション上の問題となっている誹謗中傷について研究しています。私の所属する言語文化学専攻は、多様な言語的・文化的な背景、研究関心を持つ院生、教員と議論することが出来る環境が整っています。このような環境下で自身の研究を進めていくという経験は、誹謗中傷のように複雑で混沌とした現代社会の問題を解決するために必要であると感じます。私は、人々の分断が進む現代社会において、多様な背景を持つ他者に歩み寄り、互いに尊重し合ってコミュニケーションを行うためのヒントを見つけるために研究をしています。これは、人文学という学問が向き合うべき課題の1つであると思います。皆さんとともに現代社会が持つ複雑な課題について議論し、研究できることを楽しみにしています！



李 恒聡
言語文化学専攻
博士後期課程2年

映画『インセプション』では、夢に潜入して脳に暗示的アイディアを埋め込むことが記憶に新しいでしょう。現実世界では、このプロセスが主に言説によって実現されています。この状況を打破し、個人の自由を取り戻すには、まずこれらの言説に潜むイデオロギーを解明し、脱構築する必要があります。私は現在、日本の政治家たちがどのように言説を用いて国民の生殖を統制しているかについて研究を行っています。分野横断的な研究ですが、多元的で包摂的な研究環境を有する言語文化学専攻のおかげで、研究を楽しく深めることができています。



奨学金等の支援制度・就職先

SUPPORT

※表の数値および就職先には、旧文学研究科と旧言語文化研究科の実績含む

奨学金制度

■日本学生支援機構奨学金(貸与型)

第一種奨学金(無利子)と第二種奨学金(有利子)があり、ともに、学業、人物ともに優れ、経済的理由により学資の支弁が困難と認められる者に奨学金が貸与される制度です。[外国人留学生は対象ではありません]

■地方公共団体及び民間奨学団体の奨学金

学業、人物ともに優れ、かつ、健康であって、経済的理由により学資の支弁が困難と認められる学生を大学が推薦し、採用された者に奨学金が給与もしくは貸与される制度です。大学院生が対象となる奨学金は多くはありませんが、年1回の登録期間に登録した学生の中から候補者が選考されます。その他に、希望者が直接出願する奨学金もあります。

海外へ留学するための奨学金、外国人留学生を対象とする奨学金は別枠で設けられています。

■日本学術振興会の特別研究員制度

大学院博士課程在学者(DC)及び大学院博士課程修了者(PD)等で、優れた研究能力を有し、大学その他の研究機関で研究に専念することを希望する者を「特別研究員」に採用し、研究奨励金を支給する制度です。

日本学術振興会PD・RPD・CPD/DC研究員の採用者数(人)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
PD・RPD・CPD	4	4	5
DC	11	8	9

■大阪大学授業料免除等制度

大学院に在籍する正規の学生で、学資負担者の死亡や風水害等の罹災、その他経済的理由など、本学が定める申請要件等に該当し、授業料(入学科)の納入が困難な学生を対象に、学生本人の申請に基づき予算の範囲内で選考が行われ、認められた場合には授業料(入学科)が免除される制度です。また、授業料(入学科)の納入期限が猶予される収納猶予等の申請制度もあります。

■特待留学生制度

人文学研究科では、優秀な留学生の受入れを促進するため、私費外国人留学生を対象に「特待留学生」の制度を設けています。特待留学生に採用されると、在学中の授業料の全額免除が適用されるほか、入学後の研究活動等に対する優先サポートが用意されています。特待留学生の選考は、対象となる入学試験ごとに行われ、優秀な留学生と認められた者若干名を採用しています。なお、特待留学生の選考対象となっている入学試験は以下のとおりです。詳細は学生募集要項に掲載します。研究科ウェブサイトでご確認ください。

特待留学生の採用対象となっている入学試験

- 人文学専攻／日本学専攻基盤日本学コース／芸術学専攻
博士後期課程入学試験 外国人留学生選抜
- 言語文化学専攻 博士後期課程入学試験 特別選抜および一般選抜
- 外国学専攻／日本学専攻応用日本学コース 博士後期課程入学試験
- 日本学専攻応用日本学コース 博士前期課程入学試験

過去の主な就職先

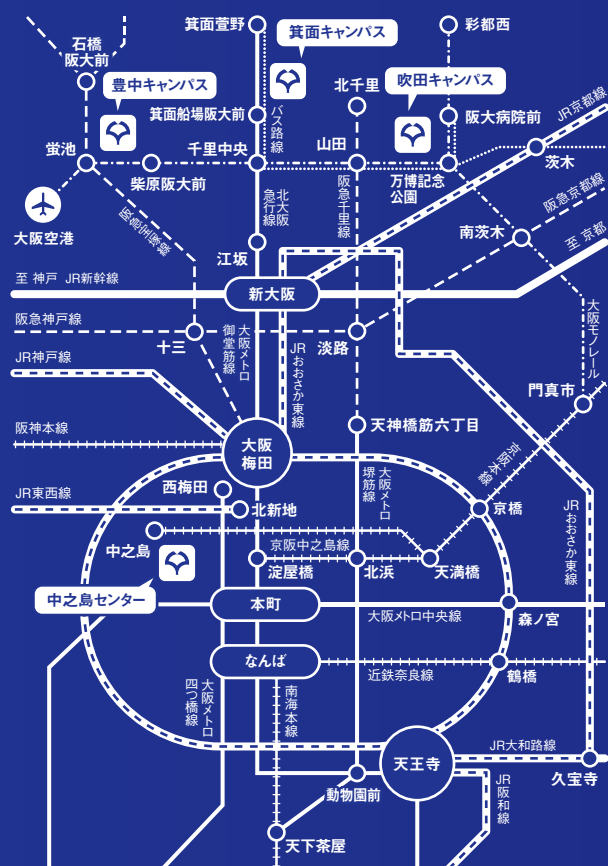
課程修了後は、中学校・高校等の学校教員になる者や国内外の大学等で研究を続ける者が一定数いるほか、国内外の民間企業等に就職する者も多数います。

主な就職先 ※順不同、敬称略、(株)省略

外務省、国土交通省、独立行政法人日本学術振興会、独立行政法人国際交流基金、県庁、市役所、教育委員会、愛知県美術館、奈良県立橿原考古学研究所、日本放送協会、大阪大学、近畿大学、学校法人大原学園(大原学園グループ)、学校法人立命館、日産自動車、本田技研工業、ヤマハ発動機、パナソニック、東芝、DMG森精機、ダイキン工業、日本IBM、富士通、レンゴー、楽天グループ、塩野義製薬、野村総合研究所、アクセント、監査法人トーマツ、リクルート、パソナグループ、数研出版、大修館書店、Z会、ベネッセコーポレーション、ナガセ など



Osaka University Access



■ 豊中キャンパス



- ・文学専攻
- ・日本学専攻基礎日本学コース
- ・芸術学専攻
- 〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町1-5
- ・言語文化学専攻
- 〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-8
- 阪急電車宝塚線
石橋阪大前駅(特急・急行停車)下車
東へ徒歩約15分
- 大阪モノレール
柴原阪大前駅下車
徒歩約15分

■ 箕面キャンパス



- ・外国学専攻
- ・日本学専攻応用日本学コース
- 〒562-8678 大阪府箕面市船場東3-5-10
- 北大阪急行線
箕面船場阪大前駅下車 徒歩 約3分
- 阪急バス
G 箕面小野原線(小野原東～呉羽の里)
船場団地 下車 徒歩約1分
H 箕面中央線(阪急石橋北口～千里中央)
箕面船場阪大前駅 下車 徒歩約3分
I 小野原東線(小野原東～千里中央)
※朝・夕のみ
船場団地 下車 徒歩約1分
K 豊中市内線(阪急豊中駅～千里中央)
新船場南橋 下車 徒歩約7分

豊中キャンパス



豊中キャンパス



箕面キャンパス



Contact

Ⅰ 文学専攻・日本学専攻基礎日本学コース・芸術学専攻

〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町1-5
大阪大学大学院人文学研究科豊中事務部教務係
【TEL】 06-6850-5085 【FAX】 06-6850-5087
【E-mail】 jinbun-kyoumu@office.osaka-u.ac.jp

Ⅱ 言語文化学専攻

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-8
大阪大学大学院人文学研究科豊中事務部学務係
【TEL】 06-6850-5856 【FAX】 06-6850-5865
【E-mail】 jinbun-gakumu@office.osaka-u.ac.jp

Ⅲ 外国学専攻・日本学専攻応用日本学コース

〒562-8678 大阪府箕面市船場東3-5-10
大阪大学大学院人文学研究科箕面事務部学生支援係
【TEL】 072-730-5069 【FAX】 072-730-5057
【E-mail】 jinbun-minoh-shien@office.osaka-u.ac.jp

大阪大学大学院 人文学研究科

検索

<https://www.hmt.osaka-u.ac.jp/>

スマートフォンはこちらから ▶

